

競技・審判上の注意

- 1 本大会は、平成22年度（財）日本バドミントン協会競技規則、大会運営規程並びに公認審判員規程により行います。
- 2 棄権をする場合、開会式前ならば各都道府県代表者が代表者会議までに、大会本部へその旨を申し出てください。代表者会議以降ならば、各都道府県代表者もしくは当該プレイヤーがレフェリーにその旨を申し出てください。
（いずれの場合も、棄権届用紙に必要事項を記載し、提出していただきます）
- 3 競技の品位を保つため、色付き着衣を使用する場合は（財）日本バドミントン協会の審査合格品とし、上衣背面中央には都道府県名またはチーム名を必ず明記してください。
（表示については大会運営規程第23条を遵守してください。広告、ロゴ等の表示についても同条を遵守してください）
- 4 試合は、試合番号順に空いたコートから入れていきます。本部より事前のコールのあった選手は選手集合所で待機してください。試合のコール後、5分経過しても当該選手がコートに入らない場合は、レフェリーの判断により「棄権」とみなします。
- 5 試合の進行状況により、試合開始時間やコートを変更して試合を行うことがあります。選手は原則として試合開始の予定時刻の1時間前には試合会場にて待機してください。（ただし、競技第1日目、2日目、3日目の第一試合はこの限りではありません。）
- 6 試合が連続することになった場合は、原則として試合終了後、15分の間隔を置き、次の試合を始めます。
- 7 試合前の練習はありませんが、各日の初戦（シードを含む）のみ3分間の練習を認めます。練習は当該選手のみで行なってください。（シングルスの場合は、対戦者同士で行ってください）
- 8 審判構成は主審、線審2名でサービスジャッジは原則として配置しません。ただし、準決勝、決勝は主審、サービスジャッジ、線審4名で行います。
- 9 シャトルの交換については、主審が必要かどうかを決定します。また、使用シャトルのスピードについては、レフェリーが決定します。
- 10 給水やタオルの使用については、必ず主審の許可を得てください。容器については蓋付きのものとし、倒れてもこぼれないものを使用してください。飲み物用のトレイをコートサイドに置きますので、その上に置くようにしてください。
- 11 試合中のけがや病気については、主審の判断により競技役員長（レフェリー）が呼ばれ、レフェリーがその後の判断をします。なお、試合中のけがや病気の応急処置は主催者で行いますが、その後の処置は各自の責任とします。
- 12 各コートバックバウンダリーライン後方に、コーチ席を2席置きますが、コーチはマッチ（試合）にふさわしい服装で臨んでください。
- 13 競技規則で認められたインターバル時に、競技区域に入れるのは同時に2人までとします。
- 14 マッチ（試合）中のコート又はコート周辺でプレイヤーの携帯電話が鳴った時は、競技規則第16条第6項（4）の違反とみなします。
- 15 レフェリーにより失格を宣告されたプレイヤーは、今大会でエントリーしているすべての種目において失格となります。
- 16 選手は試合終了時に、主審（サービスジャッジ）とも握手をするよう心掛けてください。